



大学でやりたいことや、将来のビジョンについて教えてください。

山木：自分は淡水魚が好きなので、大学では日本の淡水魚を保全する研究に力を入れたいと思っています。できれば1年生のうちから研究室に通ったりしながら、部活とかでコツコツと研究の下積みをして、院に進むつもりです。最終的には研究職に就いて、保全に貢献できたらなって思っています。

いつから淡水魚に興味をもったの？

山木：小さい頃からずっと生き物が好きで。小学校のうちは近所の山でトンボとかカブトムシを捕まえていたんですけど、魚も好きでした。小学校の頃からドジョウを飼ってます。小5くらいから飼っているのが、まだ生きてて。大きくなりました。総じて生き物が好きだったんですけど、中学に上がった時に、向陽中学校のフィールドワークで川の調査をしたんです。淡水魚を捕って、面白いな、綺麗だなんて興味を持って。そこからいろいろ調べていく過程で、淡水魚が減っているということを知って、守っていく研究をしたいと思い始めました。で、高校に上がって何か研究したいなっていうタイミングで、ちょうど同級生も魚が好きだったので、調査して研究しようっていう流れでさらにのめり込んで行って、最終的に魚一本になった感じです。

山岳部に入ったきっかけは？

山木：親が大学のときに山に登っていたらしくて。それで興味があったんですけど。中1の頃に、上高地、アルプスの麓くらいまで観光で行っ

たときに山って綺麗だなんて思って。その時にちょうど他の高校の山岳部の人たちと会って楽しそうだなって感じて。向陽高校にも山岳部があるので、やりたいなって思いました。

理学部と山岳部の両立はしんどくなかった？

山木：まあ、しんどかったですね。理学部が週5で活動、山岳部は週3だったので。重なるのでうまく調整しながら。理学部は、自分が家でできるような資料の整理とかは家でやりつつ、部長に引継ぎして山岳部に行って。山岳部でも、引継ぎして理学部に行くことも。でもどっちも大会の前とかは、忙しくてもう片方に行けないこともどうしてもあって。そういうときは周りに頼んだり、家でやれることはやって両立していた感じです。

高1・高2の勉強と部活の両立はどんな風にしてた？

山木：高1のときの山岳部はあまり活動が活発ではなかったし、理学部もそんなに研究が進んでいなかったんで、勉強の時間はありました。そんなに成績はよくなかったんですけど。高2から忙しくはなったんですけど、高1の終わってからアカデミーに来ていたので。その頃、学校の数学が分かりにくくなったのと、先にアカデミーに通っていた友だち何人から「ヨッシー(吉田先生)の英語の授業がいい」というのをずっと聞いていて。ちょうど部活の友だちもいるし、入ろうかなって。数学の授業だったら、塾は予習になるじゃないですか。学校の授業が復習になって。それで定着してきたのと、要領が分かってきて成績もそんなに落とすことなく部活と両立できました。評



進学先

九州大学

農学部

山木 大馳さん

向陽高校
山岳部 部長
理学部 副部長

インタビュアー

岡 哲司
(AC ターミナル校カウンセリングスタッフ)

定もまあとれていたもので、今思えば、そこそこ勉強していた気がします。高1のときは、普段はしていなくて、テスト前の2週間でガン詰めみたいなスタイル。高2の夏くらいからは、さすがにやらないと、と思って、1日1時間半くらい。3学期くらいから2時間以上やろうかな、みたいな感じでした。

ACクラスライブ数学・英語のことを教えてください。

山 木： 高2のときのRyu先生(山本先生)の数学は、予習だからやっぱり難しかったけど、テスト前とかに分からないところを質問したら教えてくれましたし、受けて良かったです。英語は、塾に入る前に同じくらいのレベルだと思っていた友だちと学校で隣の席になったんですけど、自分が全く理解していない問題のときに、なんかスラスラ解いてたんですよ(笑)。で、聞いたら「塾の先生(吉田先生)に教えてもらった」って。で、自分も受けてみたら文法系がすごく分かりやすかったです。

岐阜大学志望を高3で九州大学志望に変更したのは？

山 木： もともと岐阜大志望だったのは、オープンキャンパスに行って、楽しそうと思ったので(笑)。山が近いし、研究もできるし、フィールドワークも多いし。あと、難関ではないけど、そこそこがんばらないとっていうちょうどいいところかなって。志望校を変えたのは高3の初めです。科学の甲子園※に行って、あーなんか自分ももう少し頑張れるのかなって思っていた矢先に、お世話になっている学芸員の方に九大を紹介してもらって。総合型選抜もあったので、いけそうかなって。学芸員さんは、もともと友だち経由でやり取りはあったんですけど、向陽高校の授業に来てくださったことがあって。研究の相談とかもして、お世話になっていました。その学芸員さんとの話できっかけをもらいました。

※第13回科学の甲子園全国大会
高等学校等(中等教育学校後期課程、高等専門学校を含む)の生徒チームを対象として、理科・数学・情報における複数分野の競技を行う。2024年3月に出場。

総合型選抜と決めた頃には、研究材料の目途はついていましたか。

山 木： そうですね。高1の7月くらいから始めた研究がまとまってきつつあって。成果はそんなに出来なかったですけど、研究会で発表したりをしたり、方向性はある状態で。高1の12月に大阪の高校生の発表会で発表して。高2は、県の課題研究の発表会で入賞しました。高2の終わりに大学の研究生とか教師の方が集まる「魚類自然史研究会」というのに出しました。ここまではあんまりだったんですけど、ここから入賞レースが始まって。まず、高3の5月に県に研究活動を報告して、和歌山県環境賞をもらって県庁で表彰してもらいました。二つ目が、全国のSSH指定校が集まって行う成果発表会が神戸であって。そこで向陽高校初のポスター賞をとって。約280校のうち上位50の賞に入りました。で、高3の9月、体育祭の日に京大で学会があって、そこで高校生部門で発表しに行って。入賞はできなかったんですけど、発表したっていうのは大きかった。あと、6月頃から論文を書き始めていて、9月10月くらいに「Aquatic Animals」とい

うジャーナルに掲載されました。最後は、8月までのデータをまとめて考察したレポートを日本学生科学賞に出したら、県知事賞をもらいました。やっぱり生態調査なので、1年2年はかかるので。高3のころにいいデータが出てきて、考察力も上がっていて、最後いい感じに終わりました。

その研究を武器に総合型選抜で勝負。面接はどうでしたか。

山 木： 面接は、研究のことは提出書類でもう分かっていますよって感じで。研究のどういうところを担当したのかは聞かれたんですけど、それよりも自分のアイデアを求められることが多かったです。小論文のテーマが外来種の問題で、これに対してあなたはどのような取り組みをすべきですか、自分の研究をふまえて、さらにその1歩先へ、みたいな。深いことも聞かれて。おお、さすが九州やなって。過去問を見たりして対策はしていたんですけど、その上をいく質問をされて。実績はあって当然で、アイデアもしっかり持っていないといけないんだな、と思いました。何とか答えましたが、ありきたりなことしか言えなかったです。

共通テスト・二次試験の勉強はどう進めていましたか。

山 木： 夏休みの勉強は、生物は、応用力をつけるために苦手分野の参考書一冊。数学はひらすら「チャート式参考書／数研出版」ですね。ⅠAはチャートの青で、ⅡBとⅢCはチャートの黄色を1周終わらせました。英語は共テレベルの長文問題集を。部活がひと段落してからは一日11時間くらいは勉強していました。二次は数学と生物にしぼって勉強しながら、適度に英語とかの共テ対策をして。2教科集中で他は広く浅くの状態を10月頃までやって、11月からは本格的に共テ対策だけにしようって思っていたら、2～3週間入院したんですけど(笑)。退院してから共テ演習だけやり続けました。

英語は、高2のときに受けた共通テストチャレンジ※で、英語の点数がヤバくて。ヤバいなと思いながら、ヨッシーの共テ英語を受けつつ、単語は絶対にちゃんとやっていました。共通テストブレ(模擬試験)あたりでちょうど上がってきました。結局共テ本番では数学が足を引っ張った形になりました。

※ACイベント。共通テスト当日に、同じ試験を高1・2生が受験するもの。

化学は亀田先生の共テ化学を受けていました。授業が面白くて苦にならないのと、作ったまとめノートが良かったです。直前期にも見返して。暇な入院期間を活かして、亀田先生のサテラインを2周したんで(笑)。

日本史は、まとめノートを作って、演習やって、模試で間違ったところを復習して終わり。もともと歴史は好きだったので。あ、あと直前期は日本史の単語帳を作っていました。最後の最後は年代の並びかえ問題が山になってくるので、その対策で。年代を覚えようとしても覚えられないので、將軍や執権で覚える。単語帳の表に起こったことを書いて、裏には將軍の代と名前を書いて、覚えるという。

アカデミーに来て良かったなと思うことは？

山 木： 部活と勉強の両立ができたっていうのが一番大きかったです。数学は塾で予習、学校で復習。英語は、単語テストがあったので、毎日の電車の勉強習慣もついたし。基礎力を養って、部活しながらも成績を維持できた。あとは向陽生が多かったので、友達と一緒にできたっていうのが良かったです。アカデミーに来て、普通科の子たちとも仲良くなりましたし。

編集後記 ～インタビューを終えて～



山木君の高校時代は、勉強と山岳部・理学部と超多忙な3年間でした。山木君の素晴らしいところは「なりたい自分になる」ということを、受験勉強を通じて実践したことだと思います。将来のビジョンを早い段階から明確に持ち、それを叶える研究ができる大学を志し、高校の研究も受験勉強も一切の妥協をせずに志望校に合格しました。本当に見事だったと思います。高3秋まで継続した研究(論文)は、高校生の研究レベルではありませんでした。彼の探求心の深さを見せつけられるものでした。また、山木君の素晴らしい個性は、「言語化する能力」だと思います。九州大学総合型選抜で提出する志望理由書や活動報告書は、深い考察力や日本の課題に対する問題意識などを、論理的に、明晰な言葉で書かれていました。「なりたい自分になる」というスタートラインに立った山木君、彼が大学生活でどのように成長し、どんな研究者になるのか、私も楽しみです。今後の活躍に期待しています！